

今回のスービックでは、孤児院の視察に行ってきました。
この孤児院は日本人の34歳のまだ若い男性が運営を行っています。
ボランティアの日本人の女の子も一人働き、他に現地スタッフが5名の体制で
約20名の子供たちを受け入れています。

場所はスービックから北に上がって30分ほどのところにあります。



孤児院といっても、本当に親がない子は少なく、
経済環境が悪く子供を育てられない。
ストリートチルドレンで育った子など、育った環境はそれぞれ複雑です。

運営状態は非常に厳しく、世界中幾つもの支援団体が支援をしてくれているのですが、
その金額は微々たるものだそうです。

フィリピン政府も孤児院に対しての資金的な援助などは一切なく、
全て自らの裁量で賄っていかなければいけません。

働いている人たち。ほとんどボランティアに近く、給与は1か月に5000ペソ。
日本円で1万円程度です。

このお金も支払えない場合が多く、生活の為に途中でやめていってしまう場合も
多いそうです。

身の回りの世話をしてくれる人たちが変わってしまう。
これは子供たちにとってもあまり良いことではないですね。
ただでさえ不安な気持ちが、更にますますことになってしまいます。



フィリピンはまだまだ貧しい国です。
人口9000万人が30年間で14,000万人まで増える統計データが出ています。
子供たちがまだまだ増えるのです。

その中では、劣悪な環境で育つ子供たちも多く、ストリートチルドレンとならざるを得ない

子供たちも多いのです。そしてこの子供たちは愛情のないところで育つことになり、生きていくために犯罪に手をかけることになるのです。

フィリピンの治安を良くするためにも、ストリートチルドレンを少なくしていく活動は本当に重要なことなのだと今回は感じました。

劣悪な環境に育つ子供たちを、一人でも多く、愛情のある、ごく普通の生活ができる環境に戻してあげること。そこで生活をさせてあげること。これを何とかお手伝いできないか？今回はそのことを真剣に考えています。

孤児院にいる子供たち。1食の食費は50ペソ。100円だそうです。そして学校に通うための教育費。1か月900ペソ。1,800円だそうです。その他の必要も少しかかるとしても、1か月15,000円もあれば、ひとりの子供を劣悪な環境から救ってあげることができます。



今回スービックにリタイアメントハウスを作る目的の大きなひとつにこの部分があります。リタイアメントハウスから上がる収益の一部を、孤児院の運営費として寄付を行っていきます。

しかしそれだけで良いのか？

もっとできることがまだまだあると思っているのです。

この孤児院は、子供たちの自立を促すこと。これを大きな目的としています。施設内に、日本から寄付をされたクリーニング施設を置き、そこでクリーニングを受けてお金を稼いでいます。子供たちが手伝いをすれば、アルバイト代ももらえるようになっています。しかしまだまだこの仕組みもうまく稼働していません。

昨年までは、日本の農家の農業支援を受けて、野菜を育てていました。自給自足もでき、一部の野菜は市場で販売していました。

しかし、その農家の方がお亡くなりになり、今は農業のことを分かっている人たちが孤児院にはおらず、あまりまともに野菜も作れていないのです。

単にお金を寄付する。ものを寄付するのではなく、子供たちが将来自立できるようになるため自分たちができること。そのことを考えているのです。



孤児院は18歳になればここから出ていかなければいけません。

その時に、自社のリタイアメントハウスでスタッフとして受け入れてあげる。
まずはこれはできることです。

そしてリタイアメントハウスで使うリネン類。これを孤児院にクリーニングを委託する。
この部分もすぐにできることです。

でももっともっと多くのことをしてあげたいと思っています。
1か所の孤児院に対して支援を行うのではなく、この孤児院を通じ、他の孤児院へ、
フィリピン全体のストリートチルドレンを減らすために。
様々な活動ができる範囲で行っていければと思っています。



子供たちに何が必要なのか？ 孤児院に何が必要なのか？

当然お金が不足しています。毎日着る服も不足しています。
下着さえ満足にないのです。そして靴さえも満足になく、裸足の子供たちがとても多い。
本もない。英語の本を読ませてあげたい。スポーツをやるためのボールや道具。
様々あると思います。

フィリピンでは、多くの古着屋さん、リサイクルショップがあります。
使い古した下着も売っているのです。日本人的な感覚でいえば、
人の下着を使うなど考えられないことですが、フィリピンはまだまだ貧しい国で、
下着でさえリサイクルするのです。お金持ちとそうでない人たち。二極分化が酷いのです。

日本でも、ようやくリサイクルも定着して来ています。
時代背景も大きいと思いますが。それでも捨てられてしまうものが沢山あるのが現状です。

自分は以前日本にいたときには、大手古本チェーン本部、厨房機器リサイク
など、幾つものリサイクルの会社とビジネスを行っていました。

リサイクルの仕組みについては分かっているつもりです。
そしてこれらの会社でも、売れない在庫の廃棄は課題の一つでした。



日本で廃棄されるいらなくなった衣類・靴・おもちゃなど、
まずはかさばらないものから。これらをフィリピンに持ってくることを考えたいと思っています。

そしてこれを単に孤児院に寄付をするのではなく、孤児院で店を開き、そのお店で安い額でも良いから販売する仕組みにする。。

地域の貧しい人たちも、安い価格でこれらのものを購入できる。
そしてその資金で孤児院が運営できる。
子供たちにお金の大切さ、お金を稼ぐことを知ってもらう。
そんなことをやってみたいと考えています。

そしてそんな店が、フィリピンの中の孤児院でたくさん運営されるようになれば多くのストリートチルドレンを救うことになるのではないかと思います。

単に寄付をするのではなく、日本で余っているものを使い、子供たちに稼ぐ手立てを作り上げること。これができるのではないかと思います。

ただしそうはいつでも簡単なことでもありません。
ものはたくさん集まるかもしれない。

しかしこれらのものを保管する倉庫が必要です。
更には言えばこれらのものを送るには運賃もかかります。
このコストがかかり過ぎれば売った代金が運賃にもならない。
そんなことにもなりかねません。

倉庫を提供して頂ける、会社さんを探さなければいけない。
そして低コストでフィリピンまで運んで頂ける、
協力頂ける会社さんを探さなければいけません。

そして実際にものを寄付して頂ける賛同者の方々を
集めなければいけません。

今回このレポートを読んで頂いた方々の中で、興味を持って頂いた方。
お知り合いの方でご協力頂ける方。

是非ご連絡頂けますと幸いです。
最初の一步は小さくても、長くじっくりと今回の活動は続けていきます。
是非皆様のご協力をお待ちしております。

